

eco's 通信



山陰興業の社風を守る



藤原君の後姿から、一所懸命さが伝わってきます。

『感動宣言』

おかげさまでエコス通信は二百号を迎えました。これを機に表紙頁はお客様や社員、さらには地域社会の感動話を掲載してまいります。弊社とお客様との間に生まれた「ちよつといい話」や「ふるえるような感動話」をお届けしていきたいと思えます。

さすが山陰興業！

渡部製鋼所で、ろ布交換作業を松下部長、福岡課長、矢田社員、藤原社員の4名で行った。330本のリテーナーを抜いて、ろ布を交換する作業で、天候を気にしながら、2日間で仕上げた。屋外での作業なので、天候に左右される。また、私たちの作業が終わってから、お客様は次の工程に移られるので、早く終わらなければならない。

毎朝、KYミーティングを行い、安全作業を心がけた。高所作業なので、安全帯を使用する、階段の上り下りは一人ずつと決めた。

2日目の天気予報が雨だったので、初日に皆で協力して、半数以上を交換した。よって、2日目は、余裕を持って作業でき、早めに終了した。その晩に、暴風雨となり、予定した作業が無事に終了できて、胸をなでおろした。

藤原社員は、今回の作業は初めてであったが、慣れないながらも一所懸命作業した。取り外したろ布を埃まみれになりながら、黙々

と1枚ずつフレコンバッグに入れていった。彼の後姿は真っ黒になっていた。「リテーナーをはずすのに苦勞した。自分にとって初めてのお客様のところで、仕事が出来てうれしい」

矢田社員は、「保護メガネをしても、目が痛くなる」と、粉塵が一番困ると言った。

このように、お客様の困ったを解決するために皆が力をひとつにまとめる。お客様のために、面倒なこと、汚れることをいとわない。

お客様から「さすが、山陰興業！ よくやってくれた」と喜んでいただけた。

今まで先輩達が築き上げた良き伝統を後輩にしっかりと伝授し、今後ますます地域に役立つことが私たちの自信と誇りになるのである。

*ろ布：集塵フィルター

リテーナー：フィルターの固定器具

お客様訪問

株式会社 江津丸善 様

〒695-0001

島根県江津市渡津町495-1

TEL 0855-52-2277

FAX 0855-52-2512

URL:<http://gomaru.jp>



スタッフのやる気

「お客様の洗車をしていたら、キズを見つけた。私がコーティングや钣金・塗装の技術を取得し、実際に施工してみたい」と、スタッフがやってみたくて提案したことをかなえてくれる会社だ。スタッフのチャレンジ精神を伸ばし、それが事業の柱となっていくように、仕組みとして整えているのだ。これからの5年、10年先を考えて、人材と技術の育成をはかっている。

島根県西部地区で1号店

キーパーコーティングは、島根県西部で初めて認定を受け、この地区の1号店としてのプライドを持ってやっている。キーパーコーティング技術一級資格を取得したスタッフがいます。その高い技術によって、お客様から安心して任せていただいている。



钣金塗装はおてのもの。
判りやすい価格表示で安心です。



写真左より、三浦様、勢田専務様、桑野所長様、松下様。

山陰初上陸

江津給油所には、門型洗車機がない。純水手洗い洗車をおこなっている。純水生成装置をおき、純水での手洗いなのだ。純水はミネラル分を含んでいないため、水分が蒸発しても何も残らない。仕上がりがよく、お客様に大好評！！快速純水洗車をリーズナブルに行っている。



創業50周年

昭和36年創業で、来年50周年を迎える。フルサービスのガソリンスタンドで、燃料油、洗車、オイル交換、タイヤ等、お客様に車に関する安心を提供している。

もともと、現会長が川本でゲタを作って販売していたが、車社会の到来を見越し、燃料油を取り扱うようになった。そのゲタ屋の名前が、石東産業であり、江津での営業は江津丸善として、現在に至っている。石東産業は、大田市で3箇所のガソリンスタンドを営業している。

フルサービス

「ただ燃料を売るだけでなく、お客様から安心して車のメンテナンスを任せただけの店を目指します。お年寄りからお孫さんまで、家族できていただけるようにしていきたい。また、車に関してお客様へ適切なアドバイスができるプロの集団を目指し、日々勉強していく。」と、勢田専務から、力強いお言葉をいただいた。

厳しい業界に居ながら、生き残りをかけて、スタッフのやる気を伸ばし、新しい技術の導入等、積極的に投資されている。人とのコミュニケーションを重視され、価格を越えた商売に果敢に挑む、若き専務を応援します。（長野）

設立：1961年6月16日 従業員：14人
業務内容 1.石油製品販売
2.カーメンテナンス商品の販売
3.保険代理店

他の営業拠点
松川給油所 江津市松川町市村210-1
TEL (0855) 57-0267
温泉津給油所 大田市温泉津町福光イ134-2
TEL (0855) 65-2349



工場の改善

原料油タンクへの注入口を増設しました

今まで1箇所しかなかった、原料油タンクへの注入口を2箇所増設しました。また、従来のものより大きい配管にしました。これにより、タンクローリーから原料油タンクへの移送時間の短縮がはかれ、また、タンクローリー3台が同時に油移送することが可能になりました。作業効率の面だけでなく、安全面では次のような工夫がなされています。

注入口が45度上を向いている。配管に少量の油が残っていた場合、注入口から漏れるのを防ぐ。(写真1参照)



写真1(注入口)



写真2
満油警報盤(左写真)と満油警報ランプ



写真3
配管溶接部塗装状況

オーバーフロー防止の警報機を設置した。

遠方注入のため、タンクゲージが目視で確認できない。原料油タンクが満油になる少し前にランプを点滅させ、知らせる。(写真2参照)

配管溶接部に亜鉛メッキ塗装をしたうえで、通常の塗装をした。

配管の設計・施工は河上部長が、配管塗装等の作業は藤原社員が行いました。(写真3参照)

収集係の社員は、原料油移送のための待ち時間が解消し、また、安全で短時間で作業が出来るようになりました。

これからも安全で環境に配慮した作業を行っていきます。



新入社員研修

4月1日、勝部君が入社し、昨年12月入社清水君と共に、新入社員教育が行われた。社長から会社の理念についての講義の後、5Sから学ぶプログラムにより、挨拶、清掃、安全教育が行われた。



清水社員(写真左)・勝部社員

勝部君のレポート

社長の講義の中で、続けることで成果が上がってくることを学んだ。私も何事においても諦めず続けることを心がけ、皆さんから信用される社員になりたいと思う。

2日目の安全教育では、河上部長から、KYは普段から自分でもしていると聞いた。心当たりが無かったが、机の上を片付けることや掃除をすることでKYが出来ていることを知り、これなら自分でもできると思った。

清水君のレポート

私の目標は、大きな声であいさつをします。お客様先で、いつも笑顔を大切にしてお明るく元気よく、あいさつができるひとになりたい。お客様も笑顔であいさつをされたら、きっといい印象をもたれると思うので、あいさつと笑顔を大事にしていきたい。

清掃では、会社周辺のごみ拾いを行った。タバコのポイ捨てがたくさんあった。これから、お客様先でタバコの吸殻等が落ちていたら、周辺を清掃して終わりたいと思う。



神西湖一斉清掃

3月28日、神西湖一斉清掃が行われ、私たちも10名の社員が参加した。雨が降り、風もきつく、びしょびしょに濡れながらの作業であった。悪天候であったので、早くきれいにして終わりたい気持ちで、皆、一生懸命であった。

神西湖には、四方八方から大小10本くらいの河川が流入している。近年は、地域住民の方々の環境に対する意識が高まって、ゴミの量もぐんと減ってきているそうで、うれしいことだ。

また、この悪天候の中、一斉清掃に400人弱の参加があり、地域の環境美化に関心が高いことが感じられた。自分たちの手で、地域の環境を守っていくという気持ちをもっともっと広げていきたい。

(長野)



漂着したゴミや枯れたアシの枝類が混在し、分別に悪戦苦闘した。



一斉清掃の実施

4年目に入り、回数を重ねるごとに構内がきれいになり、また、社員の環境への意識も格段にたかまってきていると感じる。

構内のり面下の側溝の泥がなくなってきれいになり、水が流れるようになった。本来溝は水が流れるものであるが、当初は流れていなかったのである。泥がたまれば、誰かが取り除く。そういう意識も根付いたと感ぜられる。

こつこつと地道な努力が結果となって表れてくる。

きれいになってくると汚しなくなる。環境も人の心も浄化されるようだ。

(長野)



「キラリと光るビジネス禅語」を読んで

「月影の至らぬ里はなけれども 眺むる人の心にぞ住む」 月の光は、どこにも等しく注がれるけれども、それを受け取る人の心の状態によって、月の見え方も異なってくるものである。ひとことでいえば、「心が決める」ということだ。

以前、先輩からアドバイスを受けたことがある。「同じやるなら、楽しんでやったほうがいいよ」と。まさにその通りだと思った。辛さだけ感じていたら、いい仕事など出来るはずもなく、廻りから見放されると思う。他人の愚痴など聞きたくもないだろう。反対に、前向きに楽しんで、周囲に相談など持ちかけたら、きっとよいアドバイスなどがもらえると思う。

私たちは仕事をしていく上で、最初から諦めることなく、常に前向きに、進んでいかなければならない。頑張れば頑張ったほど、成果が出てくると信じて。

(長野)



島根県産業技術センター

吉野勝美 所長様 訪問

廃棄物有効利用の大切さ

大学の教授という、その道に深く専門性が高く、硬いように感じたが、とても博識であり、親しみやすく楽しい方であった。

ご自身が玉湯町ご出身で、高校まで松江市で過ごされたこともあり、古里への強い思いを感じた。また、幼少期の経験が将来に多大に影響し、何にでも興味を示され、研究の礎となっているように感じた。

地元玉湯町は焼き物で有名だが、幼少期の記憶で、ゼーゲルコーンの話が出た。陶磁器の焼成温度を測るのに使われ、精密な焼成条件を決定するためのものだ。それまでの経験に頼った陶芸技術が科学的に研究され、作られたものらしい。このような鮮烈な記憶が興味深かった。

また、所長様は30年前に、廃棄物を有効に利用することの大事さを認識したそうだ。私たちは廃棄物(廃油)を集めて、再生燃料として販売している。それが、普通のボイラーで使えるようにグレードアップすることが、今後の課題であると感じた。

(長野)



吉野所長様(写真左から二人目)は、阪神タイガースの大ファンだそうです。

元気の出る言葉

中村天風師

人生は、屁理屈やカラ威張りじゃ解決がつかないんだぜ

(「君に成功を贈る」より、日本経営合理化協会刊)

自分自身の人生をどうすれば生き甲斐のある、楽しい、うれしい、幸福なものにできるか。

それは、いたって簡単で、心の持ち方を切り替えればいいと説いている。そして、現在に感謝すべきだと。

文句ばかり言っても楽しくないし、いやだと思つて、好きなになれるばいのだ。いやだと思つことほど、自分から近づいていくと、道は開けるものだ。

何にでも感謝の気持ちをもって、前向きに突き進んでいこう。

(長野)



「クロモジ(黒文字)」の花。葉や枝には、ほのかな芳香があり、高級楊枝に使われます。お茶席など、和菓子に添えられています。





社長が薦める今月の一冊

リーダーの魂 伊藤謙介著 文源庫刊



《 企業が永遠に発展していくために、また一人ひとりの社員が実り多い人生を生きるためにも、理念という「不滅のバトン」を確実に次世代に継承していかなければならない。P20,21 》

経営理念とは、会社が何のために存在するのかの思いを、社員全員が共有し、力を合わせ、懸命に努力する。経営者は、すべての社員のために、会社を取り巻くすべての存在のために懸命に貢献する。結果、お客さまが、周りの社会が、私たちを心と物の両面で豊かにしてもらえます。

従ってリーダーは、自らは現場で率先して働く。その上で社員へ向かっては、理念は何か、正しい働きとは何かを、くり返しくり返し説いて欲しいのです。会社は、お客さまと地域社会に対しその責任を果たし続けるのです。

そんな良い社風を、先輩は後輩に、後輩は次の人と、自分から語り継ぎ、自分から実践して継いでいくのです。やがて私たちは、お客さまと地域からいつまでも必要とされ、私たちの幸せが私たちの努力で実現できます。(山根)

ちょっといい話 7

帰宅途中、山陰道矢田入り口付近で、前を走っていた軽自動車のおじいさんが安全区画パイロンをひっかけて跳ね飛ばした。パーンと大きな音がしたので、それが、中央分離帯付近にいた作業員を直撃したかのようだった。軽自動車は気づいておらず、止まる気配が無かった。クラクションを鳴らして、軽自動車を止めた。そして、救急車と警察を手配した。

やっと、軽自動車のおじいさんは、事の次第を理解されたようだったが、しばらくは茫然自失の状態だった。幸いに、安全区画パイロンは、作業員のヘルメットをかすめただけで、大事には至らなかった。おじいさんは、「けが人がいなくてよかった」と胸をなでおろされた。

後日、わざわざ来社され、感謝の言葉をいただいた。けが人がいなくて、本当によかった！ (高橋)

蔵書新着状況

- ・坂の上の雲 五・六 司馬遼太郎 文春文庫
- ・ちっちゃいけど世界一誇りにしたい会社 坂本光司 ダイヤモンド社
- ・出雲神話と先端技術 吉野勝美 コト社
- ・海の幸、里の幸、山の幸 吉野勝美 コト社
- ・働きだして見つけた夢 日本ドリームプロジェクト いろは出版
- ・リーダーの魂 伊藤謙介 文源庫

編集後記

最近の歴史ブームで、「歴女(レキジョ)」という言葉がよく聞かれるようになった。歴史好きの女子という意味だ。かくいう自分も歴史、特に城を見るのが好きで、城巡りをしている。今年4月12日から、大掛かりな改修工事が行われる姫路城の勇姿を見納めておこうと、見学にいった。姫路城は、国宝であり、わが国で初めて世界遺産に登録された。連立式の天守閣群をはじめ数多くの建物が建築当時のままの美しい姿で今日まで残っている。わが町の松江城も現存する城の中で唯一の正統派天守ということで、国宝指定を目指している。ちょうど今は桜の開花とあいまって、その姿の美しいこと。幼少期からの愛着もあり、松江のシンボルなので、是非国宝にと願う。日本各地のお城は、弘前城など桜で有名なところが多いので、桜前線の北上とともに、各地を訪れてみたいものだ。(長野)

今月のクイズ

解答を下記編集部までお寄せ下さい。応募の方法は、ファックス、電子メール、ハガキ、営業マンに渡していただいても結構です。正解者の中から抽選で1名様に賞品を差し上げます。今月の賞品は、八十八夜新茶です。締切は5月末です。奮ってご応募ください。

Q: 松江開府の祖は誰でしょう?



先月号の答えは「ぼたん」でした。抽選の結果、三次市山口様が当選です。おめでとうございます。

応募用紙(答)

会社名または住所、氏名

発行日: 毎月10日

発行: 690-0025 島根県松江市八幡町796-20

TEL 0852-37-2470 FAX 0852-37-2472

山陰興業(株) ECO'S通信編集部 長野

E-mail: h.nagano@e-skk.co.jp

印刷: 授産センターよつば 印刷係

ホームページ公開中(<http://www.e-skk.co.jp>)

FAX 0852-37-2472 E-mail h.nagano@e-skk.co.jp

原稿を公募します 本誌の原稿を公募します。800字~1000字程度で、身近な出来事をテーマにしたものを希望します。随時受け付けます。内容により不採用の場合はお許しください。編集部あて、どんどんお寄せ下さい。薄謝を差し上げます。